

埼玉医大グループ男子駅伝部 東日本実業団駅伝で 12 位！

ニューイヤー駅伝 2年ぶり2度目出場権獲得

第63回東日本実業団駅伝競走大会が、11月3日（木・文化の日）、埼玉県庁から熊谷スポーツ文化公園陸上競技場までの7区間76.9kmのコースで行われました。

前回13位で、惜しくもニューイヤー駅伝出場を逃した埼玉医科大学グループ男子駅伝部は、各区堅実な走りで見事12位に入り、2年ぶり2度目のニューイヤー駅伝出場権を手に入れました。

レースは、1区序盤、互いをけん制するようにスローペース。しかし10kmを通過したところから上位陣がスパート。ルーキー吉田光汰選手はこれに食らいつき、トップと僅か14秒差の11位でたすき渡し。世界トップクラスの選手が揃う2区のワールド区間では、ワンプア・タイタス選手が健闘。総合13位で3区へ。最も距離が長いエース区間の3区では、やはり国内のトップ選手が群雄割拠する中、内田健太選手が踏ん張って総合13位。4区は、昨年アンカーで12位まで僅か17秒と迫りながら悔し涙を飲んだ畝歩夢選手が力走、一時1分以上あった12位との差を27秒にまで縮めると、5区長山瑞希選手が遂に前走を抜き去りニューイヤー出場権内の12位に。6区の松井尚希選手もルーキーながら安定した走りの後続を突き放すと、逆に11位まで44秒と迫ります。アンカーの7区もルーキーの木樽杏祐選手。応援の声に時折手を上げて応える新人らしからぬ堂々区間6位の走り、11位に12秒まで迫ってフィニッシュ。

ニューイヤー駅伝本番でのさらなる飛躍を確信させる7人の走りでした。

2023年元旦、2度目の挑戦となる埼玉医大グループ男子駅伝部にどうぞ熱い応援をお願いいたします。



■埼玉医科大学アスリートクラブ ホームページ■

<https://www.smu-athlete.jp/>

